



病後児保育施設 にじっこルーム だより No.12

令和元年 10月

深まりゆく秋の中、青く澄み渡った空に凜とした空気を感じます。昨年は、市立病院リハビリ庭園に一つもならなかった柿が、今年は22個もなりました。その生命力を感じ、鮮やかなオレンジ色を見る度に心もウキウキと元気をもらっています。



令和元年度鳥取県病児保育研修会

テーマ 「子どもの服薬支援」

～くすりを上手に飲ませるために～

講師 三重県亀山市 すずらん調剤薬局

薬剤師:上荷 裕広(うわに ひろゆき)氏



上記の会が9月8日に開催され、にじっこルームの職員が参加しました。講演の中で、子どもに無理やりに薬を飲ませることで、「いやいやスパイラル」にはまり込んでしまうことがあるので、薬を嫌がるときは無理強いないせず、嫌がる理由を探って解決することが第一歩になるということでした。にじっこルームを利用される方の中に、「この子、薬を嫌がるんです。」と言うお母様の声を時々お聞きします。研修会資料を抜粋しますので、是非、参考にしてください。

参考資料:独立行政法人 環境再生保全機構発行の生活情報誌「すこやかライフ」No.48

<http://www.erca.go.jp/yobou/>



研修会に参加して…

上荷先生のご講話で、子どもには笑顔で接することが何より大切とのことでした。子どもだけではなく、大人同士でも笑顔で接し合えると相手に安心感を持つことができます。研修会のあと、先生の穏やかな表情を思い出しながら、ほのぼのとした気持ちになりました。

〔問い合わせ〕

鳥取市児童健康支援センター病後児保育施設

「にじっこルーム」

鳥取市の場一丁目1番地 鳥取市立病院内

(TEL) 0857-37-1577

～研修会資料より抜粋～

《こどもの発達と薬の飲ませ方》

乳幼児期(0歳～1歳)愛着形成期



- 笑顔で飲ませる。飲めたら笑顔で褒める。(※社会的参照)
- (※)新しい場面や事物に接して、どう反応して良いか迷う場合に親の表情などを手掛かりにして行動を決定する過程のこと。
- 吐きやすいので、空腹時に服用させる。



幼児期前期(1歳～3歳)行動形成期



- 「薬を飲まない」と激しく抵抗することもある。
- セルフコントロールを学んでいる時期。
- できたことを認めてセルフコントロールを支援する。
- 分かりやすい言葉で説明する。
- 無理やりに飲ませたり、飲めないことを怒らない。
- できない時に罰や恥を与えない。



幼児期後期(3歳～6歳)



- 友達の影響を受けやすく、好奇心旺盛だが失敗したくない時期。
- 薬を飲む意味を説明する。



学童期(6歳～12歳)



- 薬のことを具体的に説明する。(薬効や副作用)
- 学校での服薬方法を担任の先生に相談する。
- 服薬を子どもに任せっきりにしない。

(#^_^#)

薬の苦みを感じにくくする方法を用いた飲み方や嫌がらない飲ませ方など、薬剤師に相談しながら服薬支援をしていきましょう。